



# 岐大通 2013

today's guest : 松本山雅 2012 J2 15勝 14分 13敗 勝ち点 38:12位

松本市内にあった喫茶店『山雅(やまが)』を名前の由来とする「山雅クラブ」は、1975年からスタートした北信越リーグの創設時のメンバーで、一度も長野県リーグに降格することはなかった。2005年から「松本山雅」として強化開始。北信越リーグ1部時代の同県・長野との対決“信州ダービー”は地政学的・歴史的にも激しい対抗意識の現れとなり、映画の題材にもなった。2010年からJFLに昇格し、昨年よりJリーグ参戦。(吉田鑄造)

J初となる大垣・浅中開催で、勝ち点で並ぶ2位・鳥取との残留争いの大一番を見事に制したF C 岐阜。6/15第1節・アウェイ鳥取戦以来の連勝を挙げ、その際に脱出して(そして次節で再び沈んで)以来の最下位脱出。勝ち点を31に伸ばし、20位・群馬とも勝ち点で並ぶことができた。“絶対に勝たなければならない”群馬・鳥取との連戦を連勝できたのは非常に大きい。続く第3節・アウェイ横浜F C戦は10/23に延期。岐阜は試合がない状況の中、16位・北九州、17位・愛媛、18位・熊本は勝利したため、勝ち点が離されてしまったが、20位・群馬と22位・鳥取は敗れたため、岐阜が1試合残して順位も勝ち点差も変わらない状況に。しかし、横浜F C戦がアウェイ平日開催で過密日程となっている以上、「同じ試合数」と考え、現在の勝ち点で勝負する気持ちが求められるだろう。今節勝利すれば、群馬を抜いて降格圏脱出の可能性もあるが、負ければ再び最下位転落の危険性もある。今節は群馬は8位・札幌と、鳥取は3位・京都との対戦だが、(前節には、首位・ガンバ大阪が17位・愛媛に敗れたように)厳しく油断できない試合が続くのがリーグ終盤だ。今節も負けられない戦いが続く。

さて、その今節の対戦相手は、現在プレーオフ圏内を争って7位タイ(得失点差で9位)にいる松本山雅F C。通算対戦成績は1勝2敗。昨年はJに昇格してきた松本に2敗してしまったが、今年は敵地・アルウィンで見事に逆転勝利を納めている。今回も勝って通算成績を五分に戻したいところだが、向こうもプレーオフが懸かった終盤戦、勝利への執念は激しいだろうし、前回のリベンジに燃えているだろう。厳しい対戦相手であることは間違いない。松本は、10得点とチーム内得点王の#10FW船山貴之と、7得点の#19FW塩沢勝吾の両FWが大きな得点源となっている。また、前節2ゴールを挙げた#9FWホドリゴ・カペッサも気をよくしていることだろう。これら松本の強力な攻撃陣を、岐阜の守備陣がどうやって封じ込めるかが勝負のポイントになるだろう。また、岐阜は前節(鳥取戦)の退場処分#1染矢選手が出場停止だ。染矢が欠けるのは痛い、累積警告明けでリフレッシュした#2樋口選手や、前回の対戦ではヘッド2発を叩き込んだ#2新井選手の活躍に期待したいところだ。また、#1益山選手にとって松本は昨年在籍した古巣。成長した姿を相手に見せつけて欲しい。

F C 岐阜と松本山雅は、隣県同士という事もあり、地域リーグ時代から交流もある間柄だ。同じ“緑”をチームカラーとして、同じ(両県の県鳥である)雷鳥がエンブレムだったこともある。また、先述の益山選手だけでなく、松本から片山真人(2008年に岐阜に移籍、2012年で引退)、岐阜から北村隆二(2009年に松本に移籍、現在はF C 岐阜セカンド)の移籍などもあり、知らないチームではない。何より、辛島監督が初めて監督に就任したチームが、北信越リーグ時代の松本山雅(2005~2007年)なのだ。

今節は日曜開催だが16時キックオフと早く、多くの松本サポーターが駆け付け、チームに声援を送ることだろう。残念ながら成績は相手が上位、簡単に勝てる相手ではない。でも、ここは岐阜のホーム・長良川メモリアル競技場だ。松本には負けられない。最後まで勝利への執念を持ち、最後まで走り抜き、最後まで戦い続けた方が勝つ。そのためには、僕らサポーターも最後までアキラメナイ気持ちで選手たちに声援を送ろうじゃないか。

J1昇格・プレーオフ圏内争い・そして残留争いと、どの試合も厳しく激しく火花を散らすリーグ終盤戦。隣県同士の「TOP OF 北アルプス」は、様々な想いを込めて、熱く激しいものになるだろう。(ささたく)

### 2013J2 順位表 第3節

勝点、得失点差、得点、失点、岐阜戦の戦績(岐阜から見て) 暫定順位

1	神戸	72p	+28	63	35	A	H
2	G大阪	71p	+42	79	37	A	H
3	京都	60p	+22	60	38	H	A
4	徳島	59p	+8	51	43	H	A
5	長崎	56p	+4	40	36	H	
6	千葉	55p	+14	55	41	H	A
7	岡山	51p	+9	46	37	H	A
8	札幌	51p	+8	51	43	A	
9	松本	51p	+2	43	41	A	
10	東京V	51p	+1	47	46	A	H
11	山形	50p	+12	62	50	H	
12	栃木	47p	+1	46	45	A	
13	水戸	46p	-6	41	47	A	H
*14	横浜FC	44p	0	37	37	H	
15	福岡	44p	-11	37	48	A	H
16	北九州	41p	-8	41	49	H	A
17	愛媛	40p	-9	33	42	A	
18	熊本	36p	-18	36	54	H	A
19	富山	35p	-13	35	48	H	
20	群馬	31p	-19	30	49	H	A
*21	岐阜	31p	-36	29	65	---	---
22	鳥取	28p	-31	32	63	A	H

注: \*表示は消化試合が1少ない

### 次回 HomeGame

第3節 栃木 SC戦

10/27(日) 13:00

@岐阜メモリアルセンター  
長良川競技場

投稿募集!

gidaidohr@hotmail.co.jp

### 岡田歯科医院

岐阜市加納新本町 1-23  
tel:058-273-8998

## 【第3節】岐阜2-鳥取

」に昇格してからは、初となる大垣・浅中での開催。クラブも、かなり以前から浅中での開催を要望していたが、」開催のスタジアム基準を満たしていないとの理由で実現しなかった。それが、ようやく特例措置で日の目を見ることができた。しかも、その初(唯一?)の試合に「裏天王山」の鳥取戦をぶつけてくるんだから、おそろべきはクラブの眼力か、それとも」の「日程君」か... (苦笑)。西濃の有力企業がマッチスポンサーに名を連ね(これが持つ意味は、苦しいクラブ経営にも心を砕かざるを得ない岐阜サポ諸兄には、良くおわかりのことでしょう(苦笑))、しかも大東」リーグチェアマンと、田口セイノーホールディングス会長が並んで観戦するとう、まさに「御前試合」(苦笑)。いろんな意味で「大一番」、絶対に「負けられない」なんて生温い、「勝たなければならぬ」試合。試合の序盤は、岐阜が慎重すぎて、何度もヒヤリとするシュートを撃たれていた。でも、相手の精度の無さにも助けられてゴールを許さない、前半2分に#36スティッペのゴールで先制!!...すいません、芝生のゴール裏だと、反対側では「スティッペがワンタッチで流し込んだ」としか見えませんでした(苦笑)。録画を見ると、スティッペのゴールもさることながら、#30中村のポジショニング(パスケで言うとスクリーンプレイ?)もお見事。これで少し試合展開が楽になった。後半3分には、相手が背後へのボール処理を油断したところを、中村が追って競り合って奪って転がしたところに、これまた追っていたスティッペが隅に流し込んだゴール!!これは、しっかりと目の前で堪能させていただきました(笑)。またも、中村の身体を張ったアシスト(2点とも記録には載らないかな?)での貴重な得点!

でも「2点差は危険な点差」っていうサッカーの格言?があるとおり、直後に同点になり...そして、後半18分に染矢が(ボールを手で止めてしまい)イエロー2枚目で退場。まあ、気持ちは判らないでもない。でも、あーゆー審判ならセルフジャッジは(いつも以上に)しちゃいけないのも事実。猛省をうながしたいです、はい。でも幸か不幸か、これで岐阜の「やるべき事」が固まった。無理に攻め上からず、じっくりと耐え続ける30分間。声援を送ってる方としては気が気じゃなかったけれど、鳥取が放り込みに出てくれたおかげで、ボールを跳ね返し続けるDF陣。いやしかし、#35木谷と#20新井のCBコンビは、少なくとも空中戦では崩れないよねえ...実に頼もしい。

そんなこんなで、待ちに待った試合終了の笛。なんか不可解なジャッジが多発した(と僕は感じてしまっていた)ので、勝利の喜びが少し削がれてしまったけれど、それでも、勝ち勝ち!!残留争い的にも、全県下をホームタウンとするFC岐阜にとっては運営的にも、そして経営的にも、実に貴重な勝利を得ることができた(と、思いたい)。来年も1回ぐらいは浅中開催を認めていただけませんかー、ねえ大東チェアマン?(微笑)

これで、遂に最下位脱出。JFLの順位を見ると、少しは楽になった。でも、まったく油断できる勝ち点差ではないし、まだ僕らは何も手にしていない。最後の試合の、試合終了の鳴るまで、全力で戦い続けて欲しい。そうすれば、結果はついてくるはずだ。僕も、それを信じて最後まで全力で応援しようと思っている。(ささたく)

ともかくにも、ミッション・コンプリート!「最低でも勝ち点6。でないと、今後が相当厳しくなる。」と思っていた当面の敵・群馬、鳥取相手に連勝という最高の結果を勝ち取ってくれた選手たちに心からの感謝を。おつかれさまでした。ありがとう!!

しかも、この日の会場は浅中運動公園。」参入以後、初めての浅中開催。というか、岐阜市以外での初開催。この浅中が「聖地」かどうかは別にして、前売り券完売という割

には空席があったりしたものの(苦笑)、養老鉄道さんとのタイアップや、スポンサー様からシャトルバスの提供もあって勝利という結果を出せたことが何よりもうれしい。聞くところによると、」リーグのチェアマンも観戦に訪れた由。視察目的は今一つわからないけれど、動員がギリギリのリーグを再度盛り上げていくには、新規の顧客開拓が必須であって、スタジアムなどの多少のハード面には目をつぶってでも、いろんな地域での開催も重要なのではないかと思う。一つのモデルケースになったかもしれない。

肝心の試合といえば、押され気味の内容から一瞬のスキをついての電光石火なゴールで先制。しかも、後半開始早々にも最終ラインからのフィードに最前線の2人が絡んで追加点。今季のウチにはめったにない展開となったが、直後のリスタートからCKを許し、そこから失点。まさに、間髪を入れずというヤツ。そのうえ、前半の内に警告を受けていた染矢が「おいおい」とツッコミとなるような信じられないセルフジャッジで、2枚目のイエローをもらって退場。そんなに逆境が好きなのか?.....と、頭を抱えたいような緊急事態発生。しかし、布陣を4-4-1にして、交代枠も有効に活用してキツリと逃げ切った。試合後のインタビューで監督も答えていたが、天皇杯・岡山戦での退場劇が大事な一戦でのシミュレーションになるうとは.....。もちろん、意図してそういう状況を設定したわけではないが、まったく何が幸いするかわからないといったところか。

ただ、結果オーライとはいえ、ウチに余裕のあろうはずもない。10人になったら圧倒的不利になるのは明らかだ。確かにジャッジに対する不満は見ているこちら側にもあったが、選手にはうまくコントロールして対応してほしい。ましてや、セルフジャッジでのハンドなど言語道断ではないだろうか?笛が吹かれるまではプレーを継続する。集中を切らさない。基本は常に忘れないでほしいと思う。

この二戦で残留を争う当面のライバルとの試合が終わり、これからは昇格を狙うクラブを含めた上位陣との試合が続く。この勝利で徐々に最下位を脱出したが得失点差は未だに」2最下位。1試合で入れ替わる危険な状況であることを忘れずに全選手が一丸となって戦ってほしい。それを後押しするために、こちらも全力で戦うから。

それから。ここで書くべきことではないかもしれないが一言。鳥取戦で10人になってからも、それまでと同じように「前から!」とか「点取りにいけ!」という声をいくつか耳にした。それってどうなんだろう?1点リードして数的不利な状態。ラインを上げて前へ出たら裏のスペースが空いてしまう。前がかりのなってる時にボールを奪われたら、守備に戻る時間がかかるし距離も長くなる。当然、体力も余分に消耗することになる。リードしてるんだから、相手に攻めさせてボールが奪えたらカウンター。それだけでいいんじゃないだろうか?たしかに、一点差というのは微妙な状態。1点差より2点差。2点差より3点差の方が楽になれると思う。しかし、やってる選手はギリギリのはず。選手もガマンしてるんだから、見てるボクらにもガマンが必要なんじゃないか。要は1点差でも勝てばいい。その勝利のために戦っている選手にかけ言葉は「ガンバレ!」だけしかない。相手にボールを持たせればいいじゃないか。「ボールを与えて時間を奪う。」そういう戦術を取る時間があってもいい。相手がゴール前に放り込んできても、今のウチには高さがある。簡単にはゴールを割らせない。そして、いったんボールを奪えばカウンター、無理なら後ろでゆっくりボールを回し、相手を焦らせることもありだと思ふ。笛が鳴った時に1点でもリードしてれば勝ち。時間を削っていくことだって有効な戦術。相手より先にこちらがバテたら、何点リードしててもヤバい様な気がするので、鳥取戦のようなケースは守備を固めてじっとしていること、むやみに前へ出ないことも必要なんじゃないか?と思うんですけど、どうでしょう?(ぐん、)

## 清水との練習試合。

横浜が会場を押さえられなかったせい？で、リーグ戦がなかった9月最後の日曜日。何をしようかなあ～と考えていたら、清水とのTM(トレーニング・マッチ)があるとの情報。たまには、岐阜の試合を見ない週末を楽しもうという気持ちはどこへやら。キックオフ(午前1時)の1時間前には会場である清水の三保グラウンド。羽衣伝説で名高い「三保の松原」に隣接している風光明媚な場所で、グラウンドに向かう道路からは富士山を眺めることができました。グラウンドは、4列のベンチシートが設置されたスタンドもあり、檜の上からビデオ撮影も可能といううらやましい環境。笠松にもそういう設備ができないかしらん？岐阜から3時間の道のりは近いか遠いか。感じ方は様々だろうけど、キックオフが近づくころには見知った顔があちこちに(笑)。ここにはエスパルスの施設の他に野球場や公営の研修所のような建物もある関係が駐車場も広く、気がつくスタンドには立ち見客も。ご家族の運転で来場されたと思われる年配の方も数多く、さすがにサッカーの街・清水だと実感。前日に甲府とのリーグ戦を行った清水は控えとベンチ外のメンバー中心。対して岐阜は、染矢の位置に柴原を入れた以外は鳥取戦のスタメンと同じ。ガチである。ただ、さすがはJ1というか、前半はエンジンがかからないのが仕様の岐阜というか。ず～っと清水のターン。特に、清水の右SB1番(!)が最初っから高い位置を取ってガンガン攻めてくる。挙句にはゴールエリアまで進入し危ないシュートも撃ってきて、もう怖いものなんの。TMでよかったと胸をなでおろしていたら15分にあっさり失点。なかなか興味深い1番対決だった。ウチの1番はいい経験を積んだんじゃあないだろうか(苦笑)。

その後も危険な場面はあったが時々のビッグセーブやDF陣のがんばりで1点差のままハーフタイム。こちらのチャンスはユーキが外した1回だけかな？後半(というか、2本目?)に選手を4人入れ替えた清水に対し、ウチの交替は時久 貴弘のみ。公式戦同様の対応で臨む。観客席からの注目は、やはり清水からのレンタル組。あちこちで「マコは.....」「樋口が.....。」という会話が聞こえてくる。と、その声が聞こえたか2本目開始から5分。柴原がGKと一対一.....でGKに当てる。苦笑してたら、周囲からも笑い声。でも、それは冷ややかなモノではなく「しょうがないなあ」とでもいうような優しさを感じる笑い声で、それが柴原にも伝わったのか、3分後の決定機ではこぼれ球を鮮やかに反転シュートの同点弾!見事、古巣に「がんばってます!」とキッチリあいさつをしてのけた。周りの清水サポからも拍手喝采だったのは言うまでもない。その後も、いつも通りというか仕様なのか、1本目と打って変わって好機を作る岐阜。そして、16分過ぎ辺り。貴弘からフィールドにうまく合わせた美尾が空いてDFを交わして鮮やかに決める。思わず、「初めて、美尾のゴール見た!」と叫んでしまい、周りの岐阜サポに笑われてしまう。でも、事実だからしかたないよね?次節こそ、ゴールを決めてもらおう。

けっきょく、終盤38分頃に得点を許して2-2のドロー。楽しい観戦となりました。ただ、ひとつ気になったのは試合後のこと。清水の選手たちはスタンド前まで挨拶に来てくれたんだけど、ウチの選手はそのままクールダウンからのミーティング。別に、ボくら岐阜サポに挨拶というつもりはない。でも、レンタル組の樋口、柴原はもとより、地元出身の服部もいるんだから清水の人達に挨拶があってもよかったんじゃないかな?実際、帰りのクラブハウス前には何人も待機列ができていて、服部を始め樋口にも柴原にもサインを求める清水サポが多数。たかだか挨拶一つだけれどももったいないなあ.....とったり思わなかったり。(ぐん、)

## 【ユース】Jユースカップ、開幕。

我らがFC岐阜ユースU-18(以下FC岐阜ユース)は、9月22日の鳥取戦以降G1リーグの1試合とJユースカップの1試合をこなしています。

まずは9月21日(土)のG1リーグ第14節関商工戦。この試合に勝って7位のチームの結果次第では最終節を待たずしてG1リーグ残留が決まる試合でしたが、結果は0対3の完敗。序盤のチャンスに立続けに得点を得た関商工が余裕を持って試合の主導権を握り続け、一方のFC岐阜ユースの選手は2点ビハインドの焦りから自分達の持ち味を發揮できずに終戦となってしまいました。これでG1リーグ残留は最終節に持ち越しとなりました。最終節は10月5日(土)に岐阜工業と対戦となります。6日は吉報がというか届いていて下さい(祈)。

続いて9月29日(日)のJユースカップの初戦となる町田ゼルビアユース(以下町田ユース)戦。この日はトップチームは公式戦が無く、チームからのアナウンスも有ったせいか、笠松町の岐阜県FCにはユース試合では見た事が無い位の大勢の観客に会場して頂きました。両チームともこれまでJユースカップで勝ちはおるか勝点も得た事が無いチーム同士。初勝利に向けて気合が入ります。

試合は序盤から両チームのジャブの応酬でしたが、前半7分、中盤から相手DFラインの裏側へふわっと出したパスにFC岐阜ユースの選手が相手DFをかわして追いつく事が出来、相手GKとの一対一も冷静に対処してゴール!その後もFC岐阜ユースは何度も決定機を演出しますが、決めき事が出来ませんでした。一方の町田ユースはその体格を生かして何度もFC岐阜ユースのゴールに迫りますが、FC岐阜ユースが何とか凌ぎ切りました。後半はすっかり町田ユースが試合の主導権を握り続けFC岐阜ユースは防戦一方でカウンター狙いに。そして後半早々に町田ユースが同点に追いつくと懸命に防戦しますが後半33分と36分に立て続けに失点して、1対3と差が開いてしまいました。ATにPKを得てゴールを決めて1点差まで追いつきませんが、無常にも試合終了のホイッスル。町田ユースの選手応援団の喜ぶ姿がとても印象的でした。

Jユースカップの残り試合は10月14日(月・祝)にアウェーでアルビレックス新潟ユースと、10月17日(木)笠松町の岐阜県FCでジュビロ磐田ユースと、10月20日(日)にアウェーで東京ヴェルディユースとそれぞれ対戦します。特に17日のジュビロ磐田との対戦は折角のホーム試合!平日では有りますが、是非ユースの選手達の応援に行ってください。試合は19時キックオフです。頑張りよ、応援しているからな!FORZA!FC岐阜ユース!!(シュナ)

Living in Woods

本庄工業株式会社

<http://www.honj-woodream.com/>

**ALADDIN**

何も無い店だけど・・・  
心の花が咲く・・・  
何も無い店だけど・・・  
心癒される・・・

忘れかけていた喫茶店がある

岐阜市昭和町3丁目(木ノ本公園東)

# 「FC岐阜」創設の歴史と 東京国体・サッカー成年男子

いまはJリーグを戦うFC岐阜ですが、設立の時点では「Jを目指す」ことは目標ではありませんでした。当時の岐阜県で社会人のトップに君臨していた西濃運輸サッカー部の廃部に端を発する「地元の有能な選手の流出」とそれに伴う「国体代表の弱体化」、その対策として県協会が中心となって1年前に設立されたのがFC岐阜です。Jリーグを目指してFC岐阜で体制の変更が行われた際にBチームが結成され、それが現在の「FC岐阜セカンド」（以下「セカンド」）へと繋がっています。

昨年の岐阜国体が終わり、FC岐阜の経営問題が表面化した際にセカンドの行く末も案じられたのですが、県から継続しての支援が得られる運びとなり、セカンドは東海リーグ1部で戦っています（現在のトップチームの監督である辛島氏は、就任前はセカンドの監督でした）。

国体はアマチュアスポーツの全国祭典であり、「成年男子」は地域予選を勝ち抜いた16の都道府県代表チームが優勝を目指して戦いますが、その国体への『臨み方』は各都道府県によって異なり、「選抜（都道府県内社会人から選手を選抜してチームを編成する）」と「単独（既存のチームにその都道府県の代表になってもらう）」の2つがあります。現在の岐阜県は「単独」を採用しており、その対象チームがセカンドです。今年の東京大会に参加の都道府県では他に北海道（ノルブリッツ北海道）・京都府（佐川印刷）・愛媛県（FC今治）が「単独」での参加となっており、佐川印刷はJFL所属。ノルブリッツも今治もそれぞれの地域リーグで優勝している強豪です（今治の監督は元・FC岐阜監督の木村孝洋氏です）。

さて、東海予選（突破枠は「1」!）を勝ち抜いて東京国体に参加した岐阜県チームは、初戦の福岡県戦を延長の末に2-1で下し、準々決勝の京都府（上にも書きましたがJFL・佐川印刷のチームです）戦では先制逆転される土壇場で同点で延長勝ち越しされる土壇場で同点PK戦というドラマのような展開で勝ち抜き、準決勝の石川県戦は逆に土壇場で追いつかれるものの延長で直接FKを決めて逃げ切って決勝に進出しました。

決勝の相手は開催地・東京都。地域リーグ所属メンバーを中心とする選抜チーム。岐阜県チームは3試合を延長PK戦延長といずれも正規時間（国体は35分ハーフ）で終わらない厳しい戦いでしたが、実は東京都チームも3試合ともPK戦での勝ち上がりという厳しさ。コンディションが厳しいのは同じです。

試合は、前半に柳澤隼のCKから緑（「みどり」という苗字です）の右足シュートで先制。その1点を守備陣が最後まで守りきって1-0で勝利！初優勝を飾りました。おめでとうございます！

4日間の連戦となりましたが、平日にも関わらず東京在住のFC岐阜サポーターたちが夜勤の合間などを使って会場にかけつけ、声を枯らして応援したと聞きました。岐阜サポーターとして、岐阜県チームの選手たちの後押しに少しでも貢献出来ていたのなら嬉しいですね。

（吉田鑄造）

## JFL順位表（10/4現在）：残り7試合

1：長野パルセイロ	57pts	
-----		
2：カマタマーレ讃岐	56pts	J2ライセンス条件付交付
=====		
3：SC相模原	48pts	
4：町田ゼルビア	48pts	J2ライセンス条件付交付
5：ソニー仙台	44pts	
6：ツエーゲン金沢	42pts	J2ライセンス条件付交付

今年も残念ながら（苦笑）FC岐阜はJFLの順位を気にしなければならないシーズンとなってしまいました。9月30日に来季の「J1/J2ライセンス交付」が発表になりましたので、来季から始まる「J3」リーグのこともありますので、現状を含めて整理しておきましょう（ちなみにFC岐阜は無事にJ2ライセンスの交付を受けることが出来ました）。

現在JFLを戦っているクラブのうち、「カマタマーレ讃岐」「町田ゼルビア」「ツエーゲン金沢」の3クラブにJ2ライセンスが条件付きで交付されました（条件をクリアして初めてライセンスが認められる）。この3チームは、ライセンスが取得出来れば来季をJ2で戦う可能性があります。ライセンスはあくまでクラブ経営・試合運営能力を問われるもので、成績とは関係ありません。ここでは、上記3チームにJ2ライセンスが交付されると仮定して、あくまでFC岐阜との関係に絞って話を進めます。

> JFLで1位・2位の両方を上記3チームのどれかで占めた場合 = J2の最下位は来季J3へ降格。J2の2位はJFL2位と入替戦を行い、負けた方は来季J3へ。

> JFLで1位のみが上記3チームのどれかになった場合 = J2の最下位は来季J3へ降格。J2の2位はJ2自動残留。

> JFLで2位のみが上記3チームのどれかになった場合 = J2の最下位はJFL2位と入替戦を行い、負けた方は来季J3へ。J2の2位はJ2自動残留。

> JFLで1位・2位に上記3チームが1つも入らなかった場合 = J2からJ3への降格はなし。

これを前提にJFL順位表を見ると、金沢はJ2昇格可能性を得る2位ラインまで勝ち点14の差があり、ちょっと来季のJ2は厳しそうです。

J2の2位がJ3降格に巻き込まれる可能性（JFLで1位・2位の両方を上記3チームのどれかで占める）についてですが、長野と町田の勝ち点差が9あるとはいえ、長野は「町田」「相模原」「ソニー仙台」と上位との対決を残しているの、こちらは予断を許しません。

万一、J2から落ちてしまった場合の「J3」リーグですが、実はこれがどういうリーグになるのか全体像がまだ見えていません。来季以降のJ2=J3の入替レギュレーションも見えてこないの、このあたりが残留争いを戦っている各クラブのサポーターを不安にさせているのだと思います。概要を早めに公開して欲しいところです。

要はFC岐阜が2位以内に入ればいいのですが、とりあえず現実もちゃんと把握しておきましょうということで、掲載しました。（吉田鑄造）

「いらっしゃいませ」より「おかえりなさい」が似合う  
アットホームな韓国料理店。  
『チヂミ屋』は  
JR岐阜・名鉄岐阜駅から  
徒歩3分。  
休：月曜（定休日が変わりました！）

